

修士論文執筆要綱および提出について

機械システム工学専攻
機械物理学専攻
機械設計学専攻

1. 執筆要綱

1. 1 修士論文は、正本 1 部、副査用副本を主任指導教員の指示に従い必要部数作成する。論文には、専攻が配布する綴じ込み用ファイルおよび中表紙用台紙（正本のみ色紙）を用いる。論文用紙および印刷は A4 白紙に片面刷りとする。用紙のマージンや中表紙等の体裁はテンプレートに従う（機械物理学専攻・機械設計学専攻ホームページ <http://www.mech.kit.ac.jp/> を参照のこと）。
1. 2 使用する言語は日本語または英語とする。
1. 3 論文の記載は次の順序とする。
 - 1) 綴じ込み用ファイルの表紙および背表紙に、テンプレートに示す体裁で必要事項を記載する。
 - 2) 中表紙（1 枚目）には専攻が配布する台紙（色紙）を使用し、テンプレートに示す体裁で必要事項を記載する。また、中表紙（2 枚目）には A4 白紙を使用し、英語でテンプレートに示す体裁のように必要事項を記載する。
 - 3) 続いて、英文概要（300 語以内）を記載する。使用言語が日本語の場合には、ページを改めて、和文概要（400 字以内）を添付する。
 - 4) 概要の後、ページを改めて目次を書く。
 - 5) 目次の後、ページを改めて本文を書き始める。図表は本文中に掲載する。
1. 4 文章および図表はワードプロセッサ等を使用して作成する。必要があれば、黒インキ等を使用しても良い。
1. 5 文章は必要以上に冗長とならないよう注意する。
1. 6 章、節および項の表記は「1.、2. …」、 「1.1、1.2…」、 「1.1.1、1.1.2 …」とする。なお、章（章構成でない場合には節）はページを改める。
1. 7 使用言語が日本語の場合、常用漢字を用いる。外国語で周知の固有名詞および述語はカタカナ書きとするが、それ以外は原語で書く。
1. 8 数字はアラビア数字を用いる。句読点は「、」および「.」を使用する。
1. 9 使用する単位は SI 単位とする。外国文献の引用または摘要などの場合もこれに準ずる。
- 1.10 図表の説明および本文中での図表等の示し方は下記のように統一する。
 - 1) 図表内および図表の説明には英語を使用する。図の説明は下に、表の説明は上に記載する。ただし、図表中に英語以外の言語がデータとして記述される場合はこれを認める。
 - 2) 本文中で図表を参照する場合は「Fig.1, Figs.1~3」、「Table 1, Tables 1~3」のように表記する。式は、使用言語が日本語の場合「式(1)、式(1)~(3)」、英語の場合「Eq. (1), Eqs. (1)~(3)」のように表記する。
- 1.11 引用文献には通し番号をつける。本文中の引用箇所にはその文献番号を右肩に書き、「(1),

(2)・・・」あるいは「(1)～(3)」で示す。また、本文の最後には文献一覧を番号順に示す。ただし、付録がある場合は、文献一覧を付録の前に記載する。記載は次の例に従う。

(例) 学術雑誌等の場合 著者名, 題目, 雑誌名, 巻数-号数, (西暦で発行年), ページの順.

- (1) 日本太郎, 赤坂次郎, 粘弾性流のレオロジ方程式に関する研究, 日本機械学会論文集, 70-578, (1967), 359-363.
- (2) R. E. Edwards, et al., Waterhammer Analysis of Pump System, Trans. ASME, Ser. E., 30-3, (1969), 384-390.

(例) 書籍の場合 著者名, 書籍名, (西暦で発行年), ページ, 出版社名の順.

- (1) 青山四郎, 自動制御理論, (1968), 294-300, 機学社.
- (2) W. R. Ahrendt and J. F. Taplin, Automatic Feedback Control, (1968), 31-40, McGraw-Hill, N.Y.

2. 論文の提出

2. 1 論文は, 各自正本 1 部, 副査用副本を必要部数作成し提出する. なお, 副査用副本はコピーでも良い (中表紙は A4 白紙を使用).
2. 2 論文提出の締切り日時, および提出場所は別途指示する.
2. 3 論文の PDF 版を別途指示された日時に指導教員へ提出する.

以 上